

DEBUT 首長

かたの
大阪府交野市長 黒田 実氏

学テ、全国平均より上に 財政規律を目的化せず

交野市 大阪府の東北部に位置し、人口は約7万8000人。大阪市、京都市、奈良市までの距離がいずれも約20kmで、生駒山系の麓の自然が残るベッドタウンとして発展した。山間部には全長280mのつり橋「星のブランコ」など観光スポットもある。

——前市長を127票と僅差で破った。どう受け止めているか。

出馬表明は告示日の4～5日前で、何か準備をしていた訳ではなく、無投票の可能性が出る中で、いてもたってもいられず出馬した。勝因は前市長が67歳、私が45歳で、年齢が若いこと。もう一つは前市長が4選を目指していた。必ずしも多選と言い切れないが、新しい空気が必要と考える人が若干多かったのではないかと。

結果を見る限り、前市長に対しても一定の評価があったということだから、政策は是々非々で、進めるものは進め、見直すものは見直す。私は今回、教育、子育て、健康、環境、雇用の5つの発展の方向性を公約に掲げたが、とにかく若い世代をこの街に呼び込むのが大前提だ。様々な事業があるが、教育と子

育てには徹底してこだわりたい。

——具体的に「黒田色」が現れるのはいつごろか。

まずは年末までに現状把握と課題分析をし、その上で進めるものはどんどん進める。1つのポイントは来年度の予算と人事で、それが第一歩になる。

手掛けるべきものはすぐに手掛け、スピード感をもって進めるが、成果・果実が出るには数年かかると思う。例えば教育の成果の指標の1つに学力テストがある。今の水準は全国平均並みだが、いつも全国平均を上回る常連を目指している。そのためには小学6年生にテスト対策をしてもダメで、1年生からの取り組みが必要だ。教える側の技術も高めなければならない。

——公約実現に向けてどんな青写真を描いているか。

教育はきめ細かな指導をするため今年度、小学3・4年生で始めた35人学級を5・6年生に広げていくのがポイントになる。子育ては保育所の受け入れ能力が全然足りない。制度が変わる来年4月以降に向け、既存施設の増員を支援していく。子



くろだ・みのる 1969年奈良県生まれ。京都大学中退後、樽床伸二元総務相の秘書を経て2003年交野市議に民主党公認で初当選。3期目の途中で市議を辞職し14年9月の交野市長選に出馬。現職を推薦した民主党を離党して当選した。

ども向けの医療費の助成も大事だ。

健康は息の長い取り組みが必要だが、「健康寿命」を伸ばすため、一定の投資をしたい。環境はすでにある基本計画をスピードアップする。雇用は（大規模商業施設の誘致が検討される）星田北エリアの事業が計画通りに進むよう支援する。

——財政の健全化が長く市政の課題となってきた。

健全化は必要だが、財政規律を目的にしてはダメだ。財政状況がいいのは、それはそれでいいが、市民が望むのは今の暮らし、これからの暮らしがどうなるかだ。市議として11年間、前市長の市政を見てきた。市の財政は厳しいが、じっとしていても仕方がない。もう一歩前に進めないと、これからの人口減、少子高齢化の中で交野市が魅力や可能性を十分に発揮できないまま時流にのまれてしまう。（聞き手は

東大阪支局長 石川 正浩）